

# 身近な自然にはたらきかけ、命を大切にすることができる児童の育成

厚木市立清水小学校

## 1. 実践の内容

本校では10年程前に「いこいの池」というビオトープが造られ、植物も豊かであった。しかし、池の水の循環機能が低下したために植物は枯れ、この数年間は泥の池となって放置されていた。それでも、子ども達は雨が降るとたまった池をのぞき、生き物がいないかと探す姿があった。そこで今年度（平成23年度）は6年生が活動の中心となり、5年生で学んだ環境学習をもとに、ビオトープの意味と仕組みを学び、自分たちの手でビオトープを再生する活動に取り組むことになった。5月に職員で泥のかき出しを行い、6年生が本校近くの荻野川から石を拾って【写真①】池の底に敷き詰めたり【写真②】、隣接する田んぼや川の土手から植栽を移植したりして、池の環境作りをおこなった。ビオトープの専門業者にもお願いして、浄化設備の充実も図り、7月に完成式を行い【写真③】現在に至っている。



## 2. 実践の成果

ビオトープ再生活動について厚木市の環境フェスタにてパネル出展をしたところ、植物会からの反響があり、池の植栽をたくさん提供していただいたり、外来種についてのアドバイスを受けてもらうことができた。児童たちもビオトープに関する知識を高め【写真④】、9月からは「いこいの池」の使い方を考え、定点観察を継続してきている。そこから、見られる池の様子については、プリントや新聞にまとめていった。トンボ・鳥・植物などの生物が増え、池の水がきれいになったことや、流れという動きがあることで、低学年の児童がたくさん集まるようになった。時には、池にとって妨げになることも出てきたので、児童会を中心に全校で話し合い、5つの約束を決めた。学校の中に自然環境を実体験できる場ができたことが、教育環境の充実につながったと思う。



④外来種について専門家の説明

## 3. 実践のポイント

ビオトープの環境は、植栽が循環することで完成されると思う。本校のビオトープは昨年の7月に完成したばかりなので、芽吹きを時期を迎えて植栽がしっかり根をおろしていることを全校の児童に意識させ、大切に見守らせていきたいと考える。また、池の周りについては、土を柔らかくして土壌環境を豊かにすることがこれからの課題であり、今後も活動の継続と充実を図っていきたい。